

南志見西光寺看坊職田地參百刈、如前邊申付候。永代全可有收納候。諸役勤行并修理等、無懈怠可申付者也。

天正八年
拾月四日

景隆 在判

西光寺

十月十二日。假掲

【穴水白山社棟札】 鳳至郡 一六八〇

奉再創能州鳳氣至郡鈴莊穴水保北方
白山妙理大權現神殿壹宇

天正八年 庚辰十月十二日

大願主長九郎左衛門連龍 在判

大工 櫻町太郎三郎清次

小工 尾町藤吉郎家重

同 尾氣橋三郎次郎清光

冶工 兵衛 定 金

(この棟札は、長連龍が鳳至郡穴水の白山社を再造したることをいへり。然れども鈴莊穴水保と記するも

の疑ふべし、連龍の判形も亦正しからず。) 十月十三日。菅屋長頼、羽咋郡末森城主土肥親眞をして、氣多社にその社務領を安堵せしむ。

【氣多神社文書】 羽咋郡 一六八一

尚々一宮之儀、先書之筋目無相違様ニ專要候。日來者亂入候故、堂宮及大破由候。向後者修理建立急度可仕旨、衆徒社家請合候條、尤与存斗候。是又使者具に可申候。以上。

態申入候。能州一宮之儀ニ付而、先度以書狀如申入候、勅諭社(二候之)間無御違亂、何モ社領如先規、社務分目免田、任當知行之旨、被仰付尤候。若於相違者迷惑与存知、直奏爲可申社家衆徒雖罷登候、我等相抱如此御理申事候。自往古彼宮無別儀子細重々承候條、必御違亂於相止者可畏入候。委曲此使者可申候條、不能詳候。恐々謹言。

(天正八年)
十月十三日

菅屋九右衛門尉 長頼

【氣多神社文書】

一六八二

以上

一宮領之儀、先度申越候如筋目、前々旨無相違様ニ土肥但馬守(親憑)申遣候。彌相替儀有間敷候。然上者社頭修理建立急度可被入情事專一候。猶岩越小兵衛口上に可申候條、不能巨細候。恐々謹言。

(天正八年)
十月十三日

菅屋九右衛門尉 長頼 在判

一宮惣中

【氣多神社文書】

一六八三

無端書

一宮之儀、九右衛門尉先書ニ被申越候趣、彌相替儀在之間敷候。則社務分目免田分之費用之事、無相違被相濟候様ニ末守(孫)へ申越候。并十三村之内免田之儀も申理候。猶以

兎角之儀候者、可有御注進候。不可有如在候。恐々謹言。

(天正八年)
十月廿八日

岩越小兵衛 吉久 在判

一宮惣中 參

十一月十六日。長連龍、鹿島郡悅叟寺を創建し、同郡能登部村の内の地を寄進す。

【悅叟寺文書】 鹿島郡 一六八四

爲悅叟良喜居士菩提、就相立一字寺、能登邊村之内貳拾壹貫六百文之所、百姓一人相添令寄進候。勤行等不可有怠轉者也。仍寄進如件。

天正八年 十一月十六日 長九郎左衛門尉長谷部朝臣 連龍 在判

悅叟寺衣鉢閣下

(瑞松院悅叟良喜は長連龍の兄綱連の法號なり。) 十一月十八日。長連龍、小林小左衛門尉に、羽咋郡伊田村之内白石の地を扶持す。